# シュリー・ラーマクリシュナの魅力

2013年3月17日

シュリー・ラーマクリシュナ生誕178周年記念祝賀会

スワーミー・メダサーナンダによる講話

於・逗子協会

## シュリー・ラーマクリシュナになぜ私たちは惹かれるのか

時折、私は「なぜ私たちはシュリー・ラーマクリシュナに惹かれるのだろうか」と自問自答します。ラーマクリシュナに魅力を感じるのは私たちインド人だけでなく、日本やヨーロッパ、アメリカなどの人々も同様です。また、ヒンドゥー教徒だけでなく、キリスト教徒や仏教徒も惹きつけられます。ラーマクリシュナは、外見上カリスマ性があるわけでもなく学者でもありません。教育を受けていない、村の一祭司がなぜこんなにも多くの人々を惹きつけるのでしょうか。実は、ラーマクリシュナが生きている間はそれほど多くの人が興味を持っていたわけではありませんでした。しかし、亡くなった後、そのメッセージは短い間に世界中に広まりつつあります。世界で一体どれくらいの人が彼の教えを信奉しているのでしょうか。どれくらいの人が彼の名を聞いたことがあるのでしょうか。

今朝、神奈川県茅ヶ崎市にお住まいのご夫婦が初めてここにいらっしゃいました。奥様はお医者さんで今ここにいらっしゃいますが、恥ずかしいでしょうから、どの方か皆さんに言うのはやめておきます。その方のお話では、二、三年前に『ラーマクリシュナの福音』の初期の日本語版を読み大変感銘を受けたそうです。ラーマクリシュナによい影響を受けたという人が一体何人いるのか分からないと言ったのは、このような例があるからです。

私たちがラーマクリシュナに惹かれるのは、私たちの魂が、巨大な魂、スーパーソウルに惹かれるのです。ちょうど、鉄が巨大な磁石に引きつけられるようなものです。さて、ラーマクリシュナのようなスーパーソウルの特徴ですが、今日はそのうち主な三つについてお話ししたいと思います。その三つとは、

1. 無限の喜び

2. 無限の力

3. 無限の知識

です。

## 無限の喜び

私たちは皆、喜び、力、知識を欲しています。スワーミー・アドブターナンダ（ラトゥ・マハーラージ）に、ある弟子が聞きました。「私はシュリー・ラーマクリシュナを見たことがありませんが、あなたはラーマクリシュナをご存じです。ラーマクリシュナはどのような人でしたか」ラーマクリシュナの信者や信奉者であれば、このように知りたいと思うでしょう。ラトゥ・マハーラージは遠回しにこう答えました。「君は、シュリー・ラーマクリシュナをみたことはなくても、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダを見たことはあるね。どう思ったかな」すると、弟子の顔は喜びでいっぱいになりました。「スワーミージの近くにいいると、自分の中から内なる喜びがあふれ出すのを感じました」弟子の言葉にラトゥ・マハーラージは、その通りだ、誰でもそう感じたと同意しました。

スワーミージは、ヴェーダーンタについて説くために西洋に行った時、常に楽しげで冗談を言っていました。西洋では一般に、聖職者は非常にまじめで、はっきりしない感じで、笑わず笑みも浮かべずほとんど口をきかないと考えられています。ですから、スワーミージの態度はこのようなイメージと違っていたので、キリスト教徒の多くはこれに驚きました。しかし、スワーミージは喜びにあふれた様子をほとんど隠そうとしなかったので、時折非難めいた調子でこう尋ねられました。「スワーミー、あなたは真剣になることはあるんですか」即座にスワーミージはまじめな態度になって、重々しい声で言いました。「ええ、お腹が痛い時は真剣になります」

さて、先ほどの弟子の質問に戻りましょう。ラトゥ・マハーラージは言いました。「そうだね、スワーミージは、喜びに満ちていた。でも、ラーマクリシュナはその100倍楽しそうだったよ」本当にどれほど喜びに満ちていたのか想像が難しいかもしれませんが、これは本当です。なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナは、無限の喜びが具現化された存在だったからです。近くにいるだけで誰もが、ラーマクリシュナの発する喜びを感じたものでした。周りにいる全ての人に、常に影響を与えたのです。

ホーリー・マザーはラーマクリシュナが亡くなった後も長く生きましたが、同じ質問に対してやはり、彼は常に喜びに満ちていたとよく答えていました。老いも若きも、誰といても、ラーマクリシュナは喜びに満ちていました。スワーミー・トゥリヤーナンダジ（ハリ・マハーラージ）は、ラーマクリシュナの若い弟子でしたが、ダクシネシュワルにラーマクリシュナを訪ねるといつも、師と共にいる間に感じた喜びが、自分がコルコタに戻ってからも10日も15日も続いた、と後になって語っていました。束の間の喜びではなかったのです。世俗の普通の喜びとは、大きな差があります。美しい映画や劇を見たり、美しい歌を聴いたりすると喜びを感じますが、その喜びはどのくらい続くでしょうか。すぐに消えてしまいます。しかしラーマクリシュナを訪ねて短時間一緒にいるだけで、いつまでも酔いしれたような気持ちになったのです。

## 無限の力

怒りや欲望、高慢、妬みなどの悪い性向に悩んでいる場合、それを直すために自分を変えるのがどれほど大変か、私たちは経験から知っています。おそらく、長期間の「苦行」の実践、すなわち祈りや瞑想、識別などでこのような性向を克服することはできるでしょうが、もちろん非常に大変です。では、ラーマクリシュナの力はどうだったでしょうか。ここで言う力とは、力士のような肉体の力を指すわけではなく、基本的に霊的な力のことです。ラーマクリシュナには人の心を変える力がありました。信者にただ触れるだけで、あるいはただ願うだけで、その心を浄めることができました。それだけではなく、霊的な経験をさせることさえできたのです。霊的修行をしたことがある人なら、霊的経験を得るどころか心の制御だけでもどれほど大変か知っています。霊的修行の経験がないと、この難しさは完全には分からないと思います。

この点だけでも、ラーマクリシュナの非凡な力、超人的な力が分かるでしょう。一度触れるだけで、一目見るだけで、またはただ願うだけで、罪人を聖人にすることができたのです。スワーミー・シヴァーナンダジがある日、ダクシネシュワルのパンチャヴァティの木の下で瞑想をしていると、突然シュリー・ラーマクリシュナが目の前に立って自分を見ているのに気付きました。その瞬間、シヴァーナンダジは、とてつもなく大きな霊的高まりを感じ、深い瞑想に入り気を失いました。シヴァーナンダジは後に、ラーマクリシュナが願っただけで人はサマーディに入ることができたと言っていました。

スワーミージは、ラーマクリシュナが陶器職人のようだと言っていました。陶器職人は粘土の塊から何でも思いのままに作ることができますが、ラーマクリシュナは思いのままに心を形作ることができたのです。ラーマクリシュナは読み書きができましたが、スワーミー・アドブターナンダジは以前は召使いで読み書きが全くできませんでした。しかし、ラーマクリシュナの恩寵により、召使いのラトゥは非凡な聖人アドブターナンダジとなったのです。

ある日、ラトゥ・マハーラージはラーマクリシュナの足をさすっていました。ラトゥ・マハーラージのイシュタは主ラーマでした。ラーマクリシュナは突然尋ねました。「ラトゥ、お前のラーマが今何をしているか分かるか」「主ラーマが何をしているかなんて、どうして私に分かるでしょう」とラトゥ・マハーラージは困惑して答えました。すると、ラーマクリシュナは静かに言いました。「お前のラーマは今、針の穴にゾウを通しているぞ」

何年も経った後で、アドブターナンダジは、自分の求道者としてのレベルは大変低かったので、足をさすっている間にシュリー・ラーマクリシュナは自分に霊的な力を注ぎ込んでいたのだ、針の穴にゾウを通すとはそのことを意味していたのだ、と言っていました。

ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュは偉大な劇作家、俳優、作曲家で、非常にインテリでしたが、自由奔放な生き方をし、世俗の喜びに浸っていました。ギリシュはよく、自分が座った場所はそこが汚れるだけでなく地中の奥深くまで汚れると言っていました。後に、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵によって、ギリシュは徳の高い人間になり、大変純粋になりました。ラーマクリシュナが亡くなった後、ある日ギリシュはガンガーに沐浴に行きました。これはめったにないことでした。ご存知の通り、ヒンドゥー教徒は、ガンガーで沐浴すると汚れが浄められると信じています。さて、有名人のギリシュは、沐浴の最中何かつぶやいていました。近くの人が好奇心に駆られてギリシュに近寄り、耳をそばだてました。ギリシュはこう言っていたのです。「母なるガンガーよ、汚れを浄めるために私が沐浴しに来たと思わないでくださいよ。シュリー・ラーマクリシュナの恩寵で、私はもう純粋です。むしろ、あなたを浄めるために沐浴しているのです」

このような話はいくつもありますが、こうした話から、ラーマクリシュナの無限の力がどれほどのものか垣間見ることができます。

## 無限の知識

シュリー・ラーマクリシュナは正式な教育はほとんど受けておらず、聖典の勉強も正式にやったわけではありません。しかし驚くべきことに、当時の宗教学者が何人となく、疑念を晴らしにラーマクリシュナのもとにやって来ました。これはかなり珍しいことです。ほとんど教育を受けていない人の所に、何かを学びに学者がやってくるものでしょうか。二者の違いは、ラーマクリシュナは学者ではなく悟りの魂であったという点です。聖典にもこう書かれています。「人が真理を知ると、ハートのもつれは全て解け、疑いは全て消える」

ラーマクリシュナはよく、悟りの魂は勉学の女神から知識を与えられるのだと言っていました。悟りの魂は、いかなる知識も欠けることはありません。使い切ったと感じるや否や、また新たに与えられるのです。例えば、人格神と非人格神の概念をどう調和させればいいかという問題がありました。インドでは数百年にわたり、学者や宗教団体の間でこの問題について大論争が起こりましたが、十分な答えは見つかりませんでした。

たぐいまれな霊的洞察力を持つラーマクリシュナは、この神学上の問題を、水の様々な状態という最もシンプルな例を挙げて解いたのです。水の構成であるH2Oという状態を目で見ることはできません。分子がまとまって、一定の形を持たない水となった時、目に見えるようになります。氷になると、形のある水として見ることができ、蒸気になると再び見えなくなります。『ラーマクリシュナの福音』では、水を求めて池にやって来る様々な人々が例として挙げられています。ヒンドゥー教徒はジャルを汲み、イスラム教徒はパニを汲み、イギリス人はウォーターを汲み、ローマ人はアクアを汲み、日本人は水を汲むのです。しかし、これらは全て同じ水です。ラーマクリシュナは、このことを聖典から学んだのではありません。悟りに基づいた観察力と、母神から与えられた知識の力があったのです。

## シュリー・ラーマクリシュナに噛まれますように

初めに申しましたように、私たちは魂で、ラーマクリシュナはスーパーソウルです。また、私たちは鉄、ラーマクリシュナは磁石であり、だから私たちは引きつけられるのです。最後に、ラーマクリシュナが自分を喩えていったことをお話ししましょう。「私は猛毒のヘビ、コブラである。コブラに噛まれたら、カエルはやがて死んでしまう。では、ヘビに噛まれるのと私に噛まれるのと何が違うのか。ヘビに噛まれると、人は死ぬ。私に噛まれると、人は『アムリタ』、すなわち不死になる」恐がらないでください、生きるか死ぬかの違いだけです。シュリー・ラーマクリシュナの生誕祝賀会という縁起のよい行事にあたり、私たち皆がラーマクリシュナに噛まれて「アムリタ」になるよう、心から祈ります。